インキュベーターのオープン

シンガポール事務所

祝辞を述べる IE シンガポール副長官（左端）

2011 年７月１日（金）にシンガポールのビジネス街の中心地に日本人企業を主な顧客とするインキュベーター[1]が誕生した。東京でインキュベート事業を展開するクロスコープ社がアジア展開するもので、シンガポールとインドネシアのジャカルタにインキュベーターを同時に新設する。同日に開催されたオープニングセレモニーに出席したが、シンガポール企業庁（IE Singapore）の副長官が祝辞を述べ、経済開発庁の日本担当者等シンガポール政府関係者も多く出席し、シンガポール政府も期待を寄せているようである。

インキュベーターを運営するクロスコープ社のシンガポール法人社長である庄子素史氏によれば、単なる場所貸しではなく、入居している起業家や関連するサポーターがいつもそこで情報交換できるようなネットワーキングの場「アジアのシリコンバレー」を目指しているとのこと。シンガポール企業庁（IE Singapore）に勤め、在日本シンガポール大使館勤務時にシンガポール最大の豆乳ドリンクチェーン店の東京進出をプロデュースするなどした実績のある関泰二氏や個人投資家加藤順彦ポール氏も経営陣に加わり、日本の若い起業家を徹底的にサポートするそうである。

日本では、売上が５億円から 10 億円で頭打ちになる企業が多く、このような企業が殻を打ち破れるようアジアへの展開を支援していきたいとのことであった。既に、クロスコープ社の勧めに応じて海外に初進出する自動車関連企業などが入居しているほか、飲食店経営、IT 関連、エネルギー（風力）、バイオなど多くの企業から引き合いがあっている。

クロスコープ社の取締役である加藤順彦ポール氏は、３年前にシンガポールに移住された。日本では長く広告代理店経営を行う一方、エンジェル[2]として若手の起業家に対し投資を行っていた方である。シンガポールにおいても、積極的に日本人の若手起業家に投資をしていくそうで、既にクロスコープ社を含め、数社に対し投資を行い取締役として経営に参画しているそうである。加藤氏は、日本の若い人ももっと海外に出て、海外の起業家のもとで「丁稚奉公」し起業の術を学び、自分のビジネスを興してもらいたいと考えている。もし、ASEAN 諸国で起業するとすれば、追い風が吹いているシンガポールでまず起業するべきだそうである。

[1]起業家に対しオフィススペースを提供するとともに、経営アドバイスや資金調達等の支援を総合的に行う施設。
[2]株式未公開のベンチャー企業に投資する個人投資家のこと。

日本の地方自治体は一般的に、海外企業の誘致には積極的に取り組むが、日本企業の海外進出支援については雇用の喪失を恐れ取り上げない傾向がある。海外での起業に関しても、人材流出を恐れ、行政として取り組みにくいところがある。中国では、海外で留学・起業し成功した後に故国に帰ってビジネスを行う人のことを「ウミガメ」と呼ぶそうである。ベトナムやシンガポールで成功しているビジネスマンと話をしてみると「故郷に錦を飾る」ではないが、やはり日本に特別な思いを持つ人が多く、いつかは祖国に恩返しをしたいという気持ちを強く持たれている。

日本の自治体も、海外での起業家育成により積極的に取り組んでみてはどうだろうか。海外の日本人起業家、投資家等と連携し、起業を目指す若者をシンガポールなど海外に送り込むことができれば、いつの日か彼らは日本の地元に戻ってきて貢献してくれるものと信じている。

（現地取材による）

（中村次長　福岡県派遣）